



発行所
高知市丸の内
一丁目3の30
全国林野関連労働組合
四国地方本部
TEL821-2238
発行責任者
平松龍之典

当面の日程

2023 / 11 / 12
高知県緑の環境会議総
会及び記念講演
(高知市)
2023 / 11 / 17~19
新入組合員労働学校
(東京都)
2023 / 11 / 23
分会委員長・書記長会
議(高知市)
2023 / 12 / 9~10
西南三地本会議
(大阪市)

窓口メモ

◇公務災害の発生状況(9月期)につ
いて(10/7)
◇人材情報統合システムを利用した年
末調整について(10/11)
◇希望調書の作成等(人材情報統合シ
ステムでの入力)(10/23)
◇請負事業体等の重大災害の発生につ
いて(北海道局)(9/28)
◇森林管理局選考採用試験(係長級)
の実施について(10/5)

人事院四国 事務局交渉

国有林の現場実態を訴える

要求内容について、人事院本院での検討求める

10月24日、地本は、高知県内(四万十・嶺北・大橋・安芸・局)分会と合同で人事院四国事務局交渉を実施しました。要求書については、本部要求書を踏まえ、この間、地本として人事院交渉で要求してきた課題を盛り込み提出しました。交渉では、地本より要求の主旨説明を行い、人事院四国事務局からのコメントを受け、一定の議論を行い、「提出された要求書及び、労働組合からの意見等については、その内容を踏まえた人事院本院での検討が行われるよう、責任を持って本院へ上申する」との内容を確認し、要求内容については、本院へ上申させました。

級別定数の維持

2024年度の級別定数については、一般会計移行後の業務内容が複雑かつ困難の度合いも増していることなどを踏まえ、級別定数は現状を維持すること、特に森林官ポストの級の切り

下げは行わないことを求めました。

人事院は、「級別定数は、職務・職責の変化を級別標準職務表に基づき、業務の複雑、困難、高度化等の実情、人員構成、世代間の公平感等も考慮しながら改定している。また、予算の制

約を受けるものであり、定員と実員に乖離が生じている場合は級の切り下げの対象とせざるを得ない」との回答であったことから、国有林野事業については、定員削減、組織合理化により、要員は大幅に削減されてきた中で、業務量と要員実態

にアンバランスが生じ、職員一人ひとりの職責だけが高まっており、級別定数と実員との乖離だけを理由とする級の切り下げや役減を行うことなく、級別定数を維持することについて、再度求め、人事院本院へ上申させることとしました。

労働条件の改善求める

また、①再任用職員の一時金については、現職と同様の月数とすること、②再任用制度については、生活関連手当(扶養手当等)が支給されないなど、賃金、



▼発言する川村副委員長(大橋分会)、芹口書記長(安芸分会)



手当が低位に押さえ込まれており、現職との均衡を図ること、③55歳を超える職員の昇給号俸数の制限は廃止すること、④国有林においては現に単身生活をしている職員であっても、官署の異動が生じていないことを理由に支給対象とならない職員がいることから、単身の実態があれば支給対象とすることなどの労働条件課題の改善を求めました。

人事院交渉 分会からの発言

人事院四国事務局交渉では、時間的な制限もあり、全分会からの発言の時間がなく、大橋分会及び安芸分会から代表して実態改善を求めました。

大橋分会の川村副委員長からは、非常勤職員の年次休暇については、年度当初から付与されないことで、非常勤職員の確保への影響も生じかねないことから、6ヶ月間の継続勤務の要件

南国市議会議員選挙 大橋分会推せん

10月22日に投票が行われた高知県南国市議会議員選挙では、大橋分会が推薦した「今西ただよし」(社民党公認)さんが10期目の当選を勝ち取りました。

開票が進む中、選挙事務所には、地域の支援者、労働組合関係者が駆けつけ、当選が決まると大きな拍手で喜びを分かち合いました。

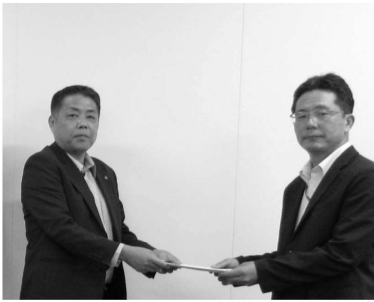


「今西ただよし」さんが当選

「広田はじめ」さんが当選

10月22日に投票が行われた参議院議員補欠選挙(徳島・高知選挙区)については、林野労組が推薦した「広田はじめ(無所属)」さんが当選しました。徳島・高知で合区が導入された2016年の参議院選挙以降4回目の選挙で野党系候補の勝利は初めてとなり、岸田政権の批判票の受け皿となったといえます。

参議院議員補欠選挙 (徳島・高知選挙区)



先月22日に投票が行われた高知・徳島選挙区の補欠選挙が行われ、林野労組が推薦する広田一氏が無事当選を果たしたが、補欠選とあってか徳島県が23%、高知県が40%と両県ともに衆院選としては過去最低の投票率となった。ラジオやテレビで言っていた「選挙って大事じゃないの?」と子どもが言っていたのに有権者は何をしていたのか...▼

気づけば選挙も終わり、すっかり季節は秋となった。山では紅葉が見頃を迎え、近所ではゆずの香りが広がる。秋と言えばスポーツの秋、読書の秋などいろいろあるが、なんといっても食欲の秋だろう。秋の果物と言えば桃や栗、柿などあるがこれ聞いてよく聞くことわざがあるが「お気付きだろうか。桃栗三年柿八年」とのことわざだ。意味は植えてから収穫までに何年かかるかを並べたもので「人が技術や知恵を身に付けようとしても一朝一夕に実現できるものではなく、長い年月が必要」という意味を持ち、それ相応の時間がかかるものだとかえが含まれている。

▼ふと権利獲得も同じではないかと感じた。人が欲し要求するものは少なからずすぐに叶うものではなく、多くの時間を費やすことがほとんどである。▼より良い社会にするため、多くの仲間の声を上げることでも少しも早く実る権利もあるかもしれない。(のり)

公務員連絡会が大臣交渉を実施

人事院勧告どおりの給与改定求める

10月19日、公務員連絡会（委員長クラス交渉委員）は、河野国家公務員制度担当大臣との交渉を実施し、今年の人事院勧告の取扱いについて、勧告どおり給与

法等の改正を行うよう回答を求めました。

河野国家公務員制度担当大臣からは、「今年度の国家公務員の給与の取扱いについては、人事院勧告制度尊重の基本姿勢の下、検討を続けた結果、勧告どおり、給与改定を行うことを閣議決定する方向である」等の回答を引き出しました。

公務員連絡会との交渉経過を踏まえ、政府は、10月20日に第2回給与関係閣僚会議を開き、本年の人事院勧告を勧告どおり実施する方針を決定し、その後の閣議で国家公務員の給与について、8月7日の人事院勧告どおり改定を行うこ



とを閣議決定しました。なお、同日に招集された第212臨時国会に給与法改正案等の関連法案が提出されることになります。今後は、国会での給与法等改正案が審議されることから、公務員連絡会は給与法等の改正に向けた国会対策を強化するとしています。



回答をする河野国公担当大臣

※下表は、2023人事院勧告に基づく国家公務員の給与モデル例（人事院が試算したモデル例：ホームページより転載）

組織	職務段階	年齢	勧告前		勧告後		年間給与額の差
			月額	年間給与	月額	年間給与	
地方機関	係員	18歳 (一般職試験(高卒)初任給)	154,600	2,523,000	166,600	2,736,000	213,000
		22歳 (一般職試験(大卒)初任給)	185,200	3,022,000	196,200	3,222,000	200,000
		30歳	230,900	3,768,000	236,900	3,890,000	122,000
	係長	35歳	274,600	4,541,000	278,700	4,638,000	97,000
		40歳	300,600	4,971,000	302,800	5,039,000	68,000
	課長	50歳	413,200	6,702,000	414,300	6,761,000	59,000

溪畔林保全対策の現状と課題

2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標SDGs」は、肌感覚でもわかる地球環境の悪化を背景に、わが国でも加速度的に啓蒙活動が進められています。SDGsの普及はまた、環境課題や社会課題の解決を意識した経済活動を当たり前とする意識の浸透をも急速に進めており、森林管理においても新たな向き合い方が求められています。本講演会では、高知の豊かな森林と水資源をより豊かな環境資源として子や孫の世代へと繋げていくため、「木材生産」だけではなく「生態系保全」や「治山治水」にも配慮した森林管理の形について、森と水を繋ぐ溪畔林の保全を中心に知識を深めたいと思います。

講師：伊藤 哲
(宮崎大学農学部 教授)

『愛しの生態系 研究者とまもる「陸の豊かさ」』(共著)
『保持林業 木を伐りながら生き物を守る』(共著)
『景観生態学』(共編著)
『森林学の百科事典』(共編著) ほかも多数

高知県緑の環境会議

林野労組四国地本の友誼団体である「高知県緑の環境会議」は、「溪畔林保全対策の現状と課題」と題して、11月12日(日) 13時30分から、四国森林管理局2階大会議室で講演会を行うこととしています。

「高知県緑の環境会議」は、山村の激しい過疎化、深刻な林業危機、森林・緑の荒廃問題に対して、美しい自然と調和のとれた豊かな環境を守り育てることが後生に対する最大の責務であるとし、緑と森林を守り育て、自然との共生の中に最適な環境を作るため、必要な諸活動を行うことを目的に、高知大学農学部教授や有識者、労働組合を中心に1987年に設立された学・労連携の組織です。

今年の基調講演は、宮崎大学農学部の伊藤哲(いとうさとし)教授を講師に「生態系保全」や「治山治水」にも配慮した森林管理の形について、森と水を繋ぐ溪畔林の保全を中心に講義を受け、講演会参加者間で共通認識を深めることを目的にしています。

今年も昨年と同様に、会場参加50名、オンライン参加85名を上限として、参加申し込み手続きを行っており、組合員のみならず参加を希望される方は、分会役員へ問い合わせをお願いします。

立憲民主党「農林水産キャラバン」 「徳永えり」参議院議員と意見交換



10月3日、地本は、徳島市で、徳永えり参議院議員(北海道選挙区・3期)と、森林・林業に関わる課題等について意見交換を実施しました。意見交換には、地本及び徳島分会(2人)、林退会徳島支部(2人)が参加しました。

今回の意見交換は、立憲民主党の「農林水産キャラバン」として、立憲民主党が進めている農林水産政策に、現場の声を反映させることを目的に全国各地で取り組まれています。当日は、林業の現場の課題として、①木材価格の問題、②林業労働者の確保、林業事業体の育成、③木材輸送を担うドライバーの確保、④野生鳥獣害対策などについて約一時間半程度の意見交換を行いました。徳永議員からは、林業が抱える多くの課題について改めて認識を深めることができたとの感想と、引き続き、全国各地で現場の声を聞いて取り組んでいくことなどの内容が話され、今後の運動に向けても有意義な意見交換となりました。

高知市長選挙

組織討議資料

岡崎誠也さんを推薦



11月26日投開票

高知市長選挙については、11月19日告示、11月26日投開票で行われることになっており、現時点では、現職の岡崎せいや氏(無所属)のほか、前高知県議会議員の桑名龍吾氏が自民党の党籍を保持して無所属で立候補を表明しています。

地本は、①2003年当時(1期目)から、これまでの選挙において、岡崎誠也氏を推薦してきたこと、②連合高知も岡崎誠也氏を推薦し、連合に結果する各構成組織も推薦し取り組みを進めていること等を踏まえ、現職の「岡崎せいや」氏を推薦決定しています。

高知市在住の組合員の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。組合員の皆様のご協力をお願いします。

高知県平和運動センター ピースセミナー

継続した学習活動に向けて

【荒牧通信員・青女】

10月14日、高知県平和運動センター主催のピースセミナーに、青年女性委員会から4人が参加しました。高知県平和運動センターが企画した「ピースセミナー」は、平和・人権・環境に係る運動課題を次世代に継承していくことを目的に開催されています。

今回は、10月コースとして①「さよなら原発。自然再生エネルギーの時代」(山崎秀一・高知県平和運動センター顧問)、②「差別の現状と人権確立に向けて」(村上裕亮・部落解放同盟高知県連合会書記長)からの講義を受け、原発政



策の問題点や、部落差別をはじめ、人権を守る運動を進めていく必要性などについて学習を深めました。普段から学習の機会が少ない中で、改めて学習活動を行っていく必要性を考える機会となりました。

このピースセミナーは、9月期、10月期、11月期と3回企画されており、第3回目は11月11日(土)となっております。林野労組青年女性員会からも積極的に参加しています。